



フランス各地で行われるイベントのご紹介

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 加藤 信行 (岩手県派遣)

フランスというとパリ市が注目されがちですが、パリ市以外の地域でも、日本を紹介する機会はたくさんあります。今回はその中から、マルセイユ市とコルマル市でのイベントをご紹介します。

マルセイユ市の秋祭り

2016年10月1日、2日の両日、マルセイユ市で、在マルセイユ日本国総領事館・マルセイユ市主催の「第5回秋祭り」が開催され、クリアパリでは前年に引き続き、日本の各地域を紹介するブースを出展しました。

マルセイユ市はフランス南部に位置する人口85万人強のフランス第2の都市です。また、マルセイユ市を中心に92のコミューン（市町村）から構成されるメトロポール（大都市部のコミューン間広域連合組織）も、域内人口187万人強を占め、フランス第2の規模を誇ります。

秋祭り会場では、マンガ・茶道・生花体験、和太鼓や三味線の演奏、盆踊りなどが行われ、多くの日本文化体験の場が提供されていました。会場内を踊り歩いている「獅子舞」について、「子供が獅子舞に噛まれると魔よけになる」という説明がなされると、少し怖がりながらも、獅子舞に噛まれに行く現地の子供たちの様子がとても印象的でした。

初日の悪天候にもかかわらず、来場者は2日間で約1万人となり、クリアブースを訪れた多くの来場者からは、お勧めの訪日時期や旅行先などについての質問が多く寄せられました。また、フランスJET卒業生（JETAA）が作成した「簡単日本語学習カード」も好評で、カード片手に、「ありがとう」や「こんにちは」と日本語で会話する方が多く、日本への関心の高さを感じる機会となりました。

秋祭り会場となったボレリー公園には、2011年に神

戸市とマルセイユ市の姉妹都市提携50周年を記念して造られた日本庭園があります。祭り期間中の10月2日には、ゴーダンマルセイユ市長、池崎総領事、久元神戸市長、池田神戸市会議長などが出席し、姉妹都市提携55周年記念行事が開催されました。

ゴーダン市長からは、マルセイユ市で特別訪問団を結成し、神戸市を訪問する予定が示され、久元市長からは、今回が初のマルセイユ市訪問であり、今回の訪仏をきっかけに、マルセイユ市・神戸市の経済面での交流を強化したいという意思表示がありました。

また、同期間中、神戸・マルセイユ姉妹都市提携55周年を記念し、マルセイユ市内の百貨店ギャラリー・ラファイエットのグルメ館において日本フェアが開催され、神戸牛などを使った料理のデモンストレーション、試食・試飲会などが行われ、日本の食文化を紹介するイベントも開催されていました。

祭り期間中は、たくさんのボランティアスタッフの方が集まっており、地元高校生を中心に、日本に関心がある学生が、日本のイベントに携わるというのは、文化交流という意味で大変意義深いものであると感じました。



来場者でにぎわうクリアブース



会場内で行われた盆踊りの様子

コルマール旅行博

つづいて、コルマール旅行博についてご紹介します。17世紀にフランス領となったフランス北東部のアルザス地方コルマール市は、ジブリ映画「ハウルの動く城」のモデルとなったことでも知られているように、いまなお中世の雰囲気を残しています。ワインがお好きな方であれば、アルザスワイン街道の真ん中に位置することから名づけられた「アルザスワインの首都」という名前のほうが聞きなれているかもしれません。

11月11日から13日までの3日間、コルマール市で国際旅行博覧会（SITV）が開催され、岐阜県、和歌山県、岩手県などの自治体が観光客誘致のためのプロモーション活動を行いました。

博覧会会場の日本エリアでは、日本政府観光局（JNTO）が中心となり、日仏の旅行会社や自治体がブースを出展して訪日旅行のPRを実施。三味線の生演奏や書道、茶道のデモンストレーションなど訪日観光客獲得



日本ブースの様子

のために工夫を凝らしました。

また、クレアパリ事務所から職員を派遣し支援を行った岩手県ブースでは、日本産漆の生産量の90パーセントを占める地元の漆を使った漆器塗りのデモンストレーションを行ったほか、岩手県産の酒を漆器で試飲していただきました。

日本酒の試飲を含めた岩手県を紹介するセミナーでは、漆器とワイングラスのどちらで飲む日本酒がおいしかったかという問いに、「漆器」と答えた人が多かったのが印象的でした。おつまみとして提供した南部せんべいや海産物等も好評でした。

会場では、折り紙のワークショップなど日本文化を体験できるイベントも行われ、多くの来場者が足を止めて見入っていました。フランス国内のみならず、世界各国からのブースが出展されており、最終日の午後は身動きができないほどの大盛況でした。

3日間で3万人を超える方々がこの旅行博に足を運んだそうです（主催者発表）。来場者の中には、すでに日本へ何度も行ったことがあるという方も多く、東京や京都といった有名どころ以外にどんな観光地があるのか、各自治体のブースで多くの方が熱心に質問されていました。各地のパンフレットを興味深く見ている来場者の様子から、魅力ある地方の情報をいかにフランスに届けていくかが重要な課題であるとあらためて感じる機会となりました。

おわりに

マルセイユ、コルマールの関連イベントに参加する中、ボランティアなどに従事しているフランス人学生の日本語能力の高さにおどろきました。学生の皆さんからは、「いつか日本に行ってみたい」、「JETプログラムに参加してみたい」というコメントが多く寄せられていました。

インバウンドへの関心が高まる中、先日NHKワールドで放映されたJET参加者による動画コンテストのニュースが反響を呼んでいるように、日本のことを良く知る外国人が母国語で情報発信することがますます重要になっています。

日本に興味を持ち日本語を懸命に学んでいる学生や、日本を訪れたいと思っている方々に訪日の機会を提供できるよう、今後も積極的に日本の地方やJET事業についての情報発信を行っていきたいと思います。